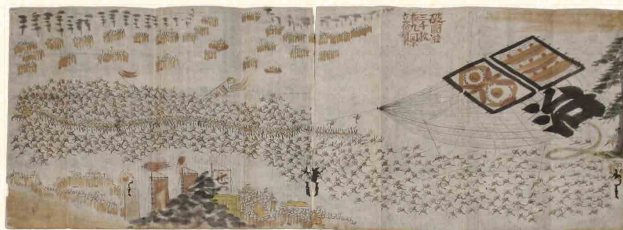


東近江大凧の歴史

江戸時代の中頃、子どもの誕生を祝って5月の節句に凧を揚げたのが始まりと言われています。最初は、小さな凧でしたが当時の金屋村、中野村、芝原村の競争による近江人の負けん気と技術の進歩、びわ湖から吹く風、そして揚げるのに適した広大な沖野が原があり、凧は次第に大きくなりました。今までに揚げた凧の中で最大のものは、明治15年(1882)に揚げた畳240枚分もの大きさになります。大凧は、秘伝として、金屋村、中野村、芝原村の人達により残され、昭和28年(1953)に結成された八日市大凧保存会(現在は東近江大凧保存会)により大凧の技術が受け継がれ、国や地方の慶祝行事などに合わせて大凧が製作され揚げられています。この「近江八日市の大凧揚げ習俗」は、国の無形民俗文化財に選択されています。



最大の凧 明治15年(1882) 240畳敷大凧の版画



嘉永元年(1848)100畳敷大凧の飛揚絵図



お車で

名神高速道路八日市インターチェンジから、
国道421号を經由して約7分
国道8号友定交差点から国道421号 約20分

公共交通で

近江鉄道「八日市駅」から徒歩約15分、
ちょっとバスで「大凧会館前」下車

会館時間

午前9時～午後5時
(最終入館は午後4時30分まで)

休館日

水曜日、祝日の翌日、第4火曜日、
年末年始(12月28日～1月2日)

入館料

| | 個人 | 団体 |
|---------|------|------|
| 一般 | 300円 | 250円 |
| 小学生/中学生 | 150円 | 100円 |

(20名様以上を団体とします)

世界凧博物館 東近江大凧会館

〒527-0025 滋賀県東近江市八日市東本町3番5号

TEL.0748-23-0081

FAX.0748-23-1860 I P. 050-5801-1140

東近江大凧会館HP <http://oodako.net/>

東近江大凧会館ブログ

<http://oodakomuseum.shiga-saku.net/>



指定管理者 公益財団法人東近江市地域振興事業団

世界凧博物館 東近江大凧会館



100畳敷大凧(13m×12m)

圧倒する大きさ

大凧の最大の特徴は何と言っても凧の大きさです。今までの凧の大きさの平均を見ても畳100枚分以上になり、正に日本一の大きさを誇ります。上の写真は、戦後最大の凧で畳220枚分(縦20.5m・横19m・重さ1.5t)の大きさがあり、昭和59年(1984)旧八日市市制30周年を記念し飛揚しました。大凧会館では、常時100畳敷大凧を1階展示ホールに展示しています。



220畳敷大凧



1階展示ホール(100畳敷大凧)

慶祝行事に大凧を飛揚

皇太子様御成婚、国連加盟、国民体育大会の開催など、国や地方の大きな出来事や祝い事がある度に大凧を飛揚しています。



海外で大凧飛揚



長巻き工法で船や飛行機で大凧を運びイギリス、中国、シンガポール、フランス、マレーシアなどの国際舞台でも活躍しています。

特徴

先人たちの知恵

「大きな凧を運搬するには・・・」
「凧を揚げり易くするには・・・」
先人達は、次の技法を考えだしました。

長巻き工法



凧の縦の丸骨を取り外しすることができ、下から巻いて収納・運搬できる製作技術です。

切り抜き工法



図柄に沿って切り抜き、凧を揚げる時の凧に対する抵抗を少なくし、揚げ糸の強度と凧のバランスを保つ工法です。

絵柄の特徴「判じもん」

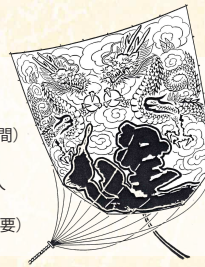


「判じもん」とは、上部に鳥や魚などを描き、下部には朱色の文字を書き、描かれた絵柄と文字を組み合わせて意味を持たせることです。この意味は、その時代の世相を反映したものや祝い言葉、メッセージなどが込められています。

たとえば、上の図柄は、平成28年(2016)の新成人をお祝いして揚げられた凧の絵柄で、上部に棒を持った猿を描き、下部に朱色の「結」の文字を入れて、『縁(猿)を結(文字)ぼう(棒)』となります。

100畳大凧の紹介

| | | | |
|------|----------------|--------|-------------------------|
| 大きさ | 縦13m・横12m | 製作延べ人数 | 約600人(1日1人6時間) |
| 重量 | 約700kg | 製作日数 | 約1カ月 |
| 使用青竹 | 6寸竹 約50本 | 飛揚必要人数 | 約130人 |
| 使用和紙 | 特性手すき和紙 | | (引き手は約100人、一量につき、ひとり必要) |
| 使用のり | 90cm×60cm 360枚 | | |
| | 18ℓ | | |



祝新成人大凧揚げ



毎年1月の東近江市成人式典の日とその年の成人をお祝いして20畳敷大凧が揚げられます。

別館 大凧作り

本館に隣接する別館は、100畳敷大凧の製作できるスペースがあり、凧作りはもちろん様々な研修や会議に利用できます。



映像室

迫力ある100畳大凧の飛揚や記録ビデオなどを大画面で見ることが出来ます。



2階の展示室 日本のお凧 500点展示

日本では、「凧」の材料となる和紙や竹が豊富にありました。ひとくちに「凧」と言ってもその種類は多く、それぞれ一つひとつに名前がつけられています。形や大きさなども変化に富んでおり、地域性や時代、また、製作者の特性などを大きく反映しているのです。そして、すべての「凧」に言えることは、製作者が大空高く舞うことを夢しながら製作し、完成後は、それが大空高く舞い揚がるということなのです。



100点展示 世界の凧(カイトロード)



「凧」は、古くから人々の信仰の対象、生活の道具、科学研究の材料さらには、人間が飛ぶための研究として世界中の空で揚げられてきました。そのため、各地域や国により、「凧」の形や揚げ方は様々あり、中にはその国の民族文化をあらわす凧が多くあります。最近では、カラフルなアートやスポーツの分野まで凧は広がってきています。

凧作り体験

凧を作って、揚げる楽しさを知る凧作りに挑戦。

体験料 1枚 300円

